

板橋エコライフウィーク 2006-Summer

7月17日(月)～23日(日)

主催 エコポリス板橋環境行動会議
地球温暖化防止活動推進協議会(温暖協)
板橋区
協力 首都圏エネルギー懇談会



参加者募集中イベント
最新情報

《学校エコツアー・21日(金)》

申込
受付中

Aコース 9:00～11:20

弥生小学校 校庭全面芝生化 見学
板橋第七小学校 緑のカーテン設置 見学



Bコース 13:30～16:00

蓮根第二小学校 ビオトープ『いきものひろば』見学
高島第三中学校 雨水利用 ハーブ園ビオトープ 見学

*参加申し込みの方には詳細な資料を差し上げます。

*体力に自信のない方のために、移動用車を用意しています。
(お問い合わせ下さい)

《赤塚自然体感ツアー・23日(日)》

申込
受付中

9:30 赤塚ため池公園内 美術館前集合
赤塚の崖線一帯は23区内でも屈指の自然度の高い地域です。この地域を次の世代に残していきたい財産ととらえ、その涼しさを体感して自然を見て歩きます。



各ツアーへ参加ご希望の方へ
電話またはFAXで受付中。下記まで。

板橋区資源環境部
環境保全課 地球温暖化対策係 担当 金井
FAX 3579-2589 TEL 3579-2596

いよいよ、板橋区ではじめての大きな温暖化防止活動として、エコライフウィークがおこなわれます。板橋区は、全国でも環境改善に力を入れている自治体の一つです。今回の主催団体の一つである、温暖協には、センスオブアースも参加し、一緒にチエをあわせてきました。区内の全ての学校に、このエコライフウィークへの協力を呼びかけています。子どもたちにも、エコライフウィークの冊子が配られ参加を呼びかけるそうです。

区民のみなさまはじめ、各学校の校長先生、副校長先生、先生方、夏休みの第一日目で水泳指導等お忙しい中ですが、学校関係者のみなさまにも、普段なかなか見ることのできない区内エコ活動の実践校の一部を見ていただき、温暖化防止につながる環境教育の参考にして頂ければこんなうれしいことはありません。



その他の取り組み

エコライフフェア (於 グリーンホール)

◎ 17日(月)～23日(日) 終日
緑のカーテン模型で実験・相談・映像放映・パネル展示
エコ製品展示

◎ 20日(木)～23日(日) 11:00～14:00
ゴーヤ、ヘチマのエコクッキング試食会



◎ 22日(土) 10:30～12:00 グリーンホール2階
気象予報士 森田正光氏の講演会
「異常気象と環境破壊～異常気象は何を訴えているか」

SOE イベントリポート

鳥や虫たちの通り道をたどるミニ探検に行こうin板橋(蓮根・荒川)

“NHK生活ほっと”
“子ども電話相談室”の
藤本和典先生と歩く



6月17日(土) 10時～13時
板橋区立蓮根第二小学校校庭ビオトープ～荒川土手

6月17日、藤本和典先生と辿るコリドー(鳥や虫たちの通り道)を観察してきました。

『セッカという鳥は鳴きながら飛んでいくんだよ。昇るときには「ヒー、ヒー、ヒー」と鳴き、下る時には「チャッチャチャ」と鳴くのです。』

『ヤマモモは本来、西南日本の木でしたが、今では東京でも実がなるようになりました。この実はとても美味しいのでうれしいのですが、実は地球温暖化現象の現れなのです。』

ナチュラリストの藤本先生の話はわかりやすく、いつでも面白い。目の前に現れる生き物の姿や鳴き声を見ながら・聞きながらの観察。だから、参加した子供だけでなく、大人達も先生の話に吸い込まれてしまうのです。

歩きなれた道も、なぜか違う世界に迷い込んだ錯覚に陥ってしまいました。



スタートは、蓮根第二小学校の学校ビオトープ“いきものひろば”
藤本ワールドの始まりです



公園の中で。
なにげない鳩にも、桜の木々にも、
生き物の不思議がいっぱいあるんです。

蓮二小から荒川まで、直線にすればほんの数百メートル。その間には、実に多くの「不思議」が隠されていました。

5月～6月に葉を落とす常緑樹。ウドンコ病にかかったハナミズキ。ボタンインコ

“コリドー”と呼ばれる鳥や虫たちの通り道。

彼らはそこにいろいろな落し物をしていきます。多くは彼らの糞ですが、その中には多数の種(植物の)が混ざっていて、その種が発芽して草むらになります。

たとえば「イヌムギ」はスズメの餌ですから、彼らが通る“コリドー”には、必ずイヌムギの姿を見ることが出来るわけです。

アリを見つけると
たのしいアリのお話が始まります。



普段は入れない自然生態園で、
とてもたくさんのクロベンケイに
みんなワクワク。



が増えたわけ。多くの病原菌を持っているドバトの話。トカゲは大きく分けて2種類いること、そして尻尾を切って逃げることの意味。2種類いるカラスの鳴き声の違い。つくしがアルカリ性の土壌を好むこと。カイズカイブキというしゃれた街路樹には10種類ほどの生き物しか寄り付かないこと（クヌギ、コナラなどは400～800種位）などなど…。

荒川では自然生態園でクロベンケイの観察。
別世界のような場所に、参加者全員が驚きの表情を隠せませんでした。

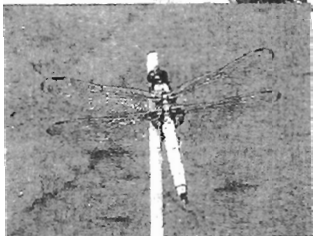
観察会を締めくくり、藤本先生から聞いた話は印象的でした。それは樹木が作り出す酸素の話。いま地球上に暮らす人々が生涯生きてゆくために必要とする酸素が、いったい何本の木から生産されるか？ という問いかけでした。

答は一人当たり平均16本の木が必要なのだそうです（日本の場合は280～290本）。
見て驚き、聴いて楽しみ、そして考えさせられる有意義な観察会でした。

藤本和典さんは、自然を好きになるひとが一人でも多く増えてくれればと、シェアリングアース協会を設立し、五感を使うたのしい自然観察会を各地で開いています。とくに、30年にもおよぶ明治神宮の定例観察会は、都会の中心でとてもすてきな自然を体感できる観察会です。詳しくは、ホームページ www.aaa.gr.jp/fujimoto/activities.html へ。

メンバーズ コラム

「トンボのヤゴ救出、 そして羽化へ」



どこの学校でも5月末～6月初めにかけて、プール清掃をします。プールの中では秋にトンボが産んだ卵が、ヤゴになり育っています。1時間くらいで200匹近いヤゴを網ですくったことがあります。もし救わないと下水道に流され、死んでしまいます。

救ったヤゴはプランクトンやボウフラなどの小さな生き物（ヤゴの食べ物）のいそうな池などに入れるとトンボになります。小さなダンゴムシや糸ミミズなどをエサにして育て、ヤゴが大きめになってきたら、お花を生けるのに使う“けんざん”に少し長い木の枝などを刺し、羽化する場所を作ってあげます。

朝早く羽化するので、教室ではなかなかその瞬間は見られませんが、朝、カーテンなどにとまっているのを見つけて大喜びしたものです。子供たちの歓声に送られ、大空に飛び立って行く姿は、なんだかうれしそうに見えます。(K)

SOE イベントレポート

GEIC 環境映像上映会 in 青山
寺田 茂 監修 「学校ほど愉快なところはない」

6月24日(土) 13時～17時
於 地球環境パートナーシッププラザ (GEIC)
東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学 1F



6月24日(土)に青山の「地球環境パートナーシッププラザ(国連大学1F)」で上映されたこのビデオ。実はこの作品は、私たちNPO発足の原点ともなった活動の記録映像です。

「学校ビオトープ」が出来るまでのドキュメントですが、教職員、児童、保護者、自治会、専門家、行政の協力体制がよく見えてくる映像だという評価を、当時各方面からいただきました。

上映会当日は大学教授から現役の教職員、現役の大学生まで世代の枠を超えた参加者が来場。上映後の懇談会では「環境活動」への忌憚のない意見が交換され、初めての試みとしては手ごたえのあるイベントとなりました。今後もこうした上映会をさまざまな場所で開催していこうと思います。

● 上映会当日参加した大学生の感想

「学校は学びの宝庫だと思いました。子供たちの豊かな発想力、専門家の協力、そしてお父さん、お母さんの活躍…。学校に多くの大人たちが来て、一緒に時間をすごすと、子供たちはそういう大人たちの背中を見て育っていくのかもしれないと思いました。

地域全体が家族のような気持ちで成長を見守ろうという気持ちが、地域を明るくしていくと思いました。学校から情報を発信することの他に、地域から学校へも積極的に呼びかけあうことで繋がりあっていけると思いました…(略)…学校ビオトープから、生物の命が生まみ出されただけでなく、人間の生き方も豊かに、笑顔を生み出してくれる場所になっていたなと思いました…(略)



SOE名誉顧問の佐島群巳先生も参加、環境NPOや、日本の環境教育などについてお話しいただきました。

ドイツの学校ビオトープ視察ツアーのご案内

日本生態系協会では、平成18年8月21日(月)～27日(日)の7日間一自然に学ぶドイツの学校一世界で最も先進的な学校ビオトープづくり見学ツアーを募集中。

学校が始まっているドイツの見学。幼稚園・保育園から、小学校・高校・大学まで、様々な事例を見学します。

滞在都市: カールスルーエ、ベルリン、ポツダム 旅行代金: 44万円

視察企画: 日本生態系協会 TEL. 5951-0244

申込み先: 日本通運(株) 首都圏旅行支店担当 染野 FAX. 03-6251-6362 TEL. 03-6251-6352

締め切り: 7月14日(金) 期日過ぎても問い合わせをしてみる価値あります。ちなみにSOEからも参加します。

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務局 東京都板橋区前野町4-8-8 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp uri: www.npo-soe.jp